

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

学習指導要領では、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、これまでの優れた教育実践の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を推進していくことが求められている。

生徒一人一人に社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に重要となっている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動が取り入れられるべきものである。

専門教科情報科の学習においては、具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められており、学習の過程は、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、「計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果を基に計画を検証する「振り返り」等に整理することができ、各過程を行き来して学習活動が行われる。また、具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の

専門教科情報において社会とのつながりを意識した探究的な学習を構想する際のポイント

【ポイント】  
単にコンピュータ等を利用するというのではなく、情報モラル等にも留意した合理的な判断に基づいて、解決が可能となるように問題を細分化したり、処理を最適化したりするなど、コンピュータ等の情報技術の特性を生かし、見通しを持った試行錯誤と評価・改善とを重ねながら問題の発見・解決を進めていく学習活動を設定する。

【ポイント】  
情報教育が育成を目指す資質・能力を実践的な行動に結び付けるには、情報社会に参画し、その発展に寄与しようとする態度の育成が不可欠であることから、社会とのつながりを意識した探究的な学習活動を設定する。

学びに向かう力・人間性等  
「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う」

知識・技術  
「情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする」

思考力・判断力・表現力  
「情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う」

【ポイント】  
問題の発見・解決の方法そのものと、統計処理やビッグデータの解析などの情報の活用、プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザインの適用などの情報技術の活用により問題の発見・解決等を行う学習活動を設定する。

【ポイント】  
社会、産業、生活、自然等のあらゆる事象を対象とし、情報科特有の視点で捉え、モデル化の手法を適用するなど、コンピュータ等の情報技術を用いた処理に適するようなアプローチで事象を見ることにより、複雑な事象を抽象化して「情報」と「複数の情報の結び付き」として把握する学習活動を設定する。

【ポイント】  
把握された事象を、情報技術の活用を通して、例えばプログラムの実行結果、分析によって得られた情報、デザインされた表現など、新たな情報として再構成していくというようにして、問題の発見・解決を遂行していく学習活動を設定する。

発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用を探究していく中で、情報社会との適切な関わりについて考えるなど、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

このような学習の実現を図るためには、社会の様々な事象を情報技術を用いた問題解決の視点で捉え、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切かつ効果的な活用と関連付け、新たなシステムやコンテンツなどを地域や産業界と協働して創造するなどの実践的・体験的な学習活動が考えられる。

## (2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

### ア 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら教育活動の充実を図ること、その際には、生徒の発達の段階や特性を踏まえ、三つの柱に沿った資質・能力の育成がバランスよく実現できるよう留意する必要がある。

学習評価については、指導と評価の一体化の観点から、生徒に対して行った評価が教師の指導改善や生徒の学習改善に生かされることが重要である。そのため、現時点における生徒の到達度を教員が認識し補助的な指導を追加したり、また、必要に応じて口頭などで生徒に到達度を示したり生徒自身による改善を促したりすることに重点をおいた評価と、生徒の到達度を見極め、総括される内容の一つとして採用する評価（記録する評価）を分ける工夫を施した授業計画が必要となる。

学習評価の充実にあたっては、いわゆる評価のための評価に終わることのないよう指導と評価の一体化を図り、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、生徒が自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように評価を行うことが大切である。

### イ ICTの活用

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう、ICT端末を最大限生かし、端末を日常的に活用するとともに、教師がこれまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、教育の質の向上につなげていくことができる。

また、学習指導の準備や評価にICTを活用し、クラウド上で進捗状況の把握やドキュメントの共有を行うことで、次のように教師の負担軽減や指導方法等の工夫・改善を図ることができる。

- ・教師が生徒の学習課題の進捗状況をリアルタイムに把握できる。
- ・教師が行った評価や指導を生徒が容易に確認することができる。
- ・資料の配布・回収を行うことで、業務の効率化・負担軽減を図ることができる。
- ・生徒の学習履歴等を一元的に管理することで、生徒の実態を踏まえた指導方法等の工夫改善に活用することができる。